

20020870

厚生労働科学研究費補助金

こころの健康科学研究事業

人間関係の希薄化がもたらした精神保健問題に関する研究

平成14年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 北村 俊則

平成15年3月

目次

． 総括研究報告

人間関係の希薄化がもたらした精神保健問題に関する研究 北村 俊則	1
-------------------------------------	---

． 分担研究報告

1. パーソナリティ形成にかかわる幼少期体験についての研究 北村 俊則, 下地 明友, 中島 央, 蓮井 千恵子, 吉川 武彦	4
2. 青年期の対人的怒り感情—男子高校生の怒り対象、動機、人格要因に関する予備的分析— 大淵憲一	34
3. 不登校からひきこもりへの遷延化と転帰に関する研究 伊藤 順一郎, 堀内 健太郎, 吉田 光爾, 小林 清香, 野口 博文	40

人間関係の希薄化がもたらした精神保健問題に関する研究

主任研究者

北村 俊則 熊本大学医学部神経精神医学講座

分担研究者

伊藤順一郎 国立精神・神経センター精神保健研究所社会復帰相談部

吉川 武彦 国立精神・神経センター精神保健研究所

研究要旨

人間関係の希薄化がもたらしたと考えられ、社会問題となったような、時に犯罪行為にまで発展する精神保健問題について基礎研究を行った。その結果は以下の通りであった。(1) 児の気質について、母の過干渉の傾向が強いほど activity が低く、児は静かにしている。また母の過干渉の傾向が強いほど児は sociability 社会性に欠ける。父の自己志向性が強いほど子は落ち着いている。親のパーソナリティと親自身が子どもであったころに受けた養育環境の関係をみると、高い care と低い overprotection が性格 - ことに self-directedness - および女性の気質 - 高い reward dependence と低い harm avoidance - に寄与していた。(2) 男子高校生は、家族、友人、教師など身近な人に対して怒りを感じることが多かった。怒りの主たる原因は、自由や地位が脅かされたとか危害を加えられたと感じることだった。怒ったとき、生徒の多くは (85%) 攻撃反応を示し、成人と比べて暴力反応が比較的多かった。暴力反応は自由や地位が脅かされたと感じたとき生じるが、これは短気で感情制御の低い生徒によく見られた。間接的攻撃は危害を受けたと感じたときに動機づけられたが、これは猜疑心や被差別感など敵対的な対人認知傾向のある生徒に見られた。(3) 「社会的ひきこもり」を呈した者の 40.8% に不登校経験があるとの先行研究を、不登校児童生徒の予後に関する先行研究を調べ、中学校卒業後への相談・援助の継続が起こりにくいことが、不登校から「社会的ひきこもり」への遷延化の一因となっているとの仮説を立てた。不登校の問題についての相談・援助機関に対する施設調査と、相談・援助機関に訪れていた中学3年生生徒や家族に対する郵送アンケートによる個人調査を行うこととした。現在調査実施中である。

A. 研究目的

人間関係の希薄化がもたらしたと考えられ、社会問題となったような、時に犯罪行為にまで発展する精神保健問題は、従来の精神病理学では扱いきれない。その原因として、近年の人間関係の希薄化、生活環境の問題とパーソナリティの関係等が挙げられている。本研究では、人間関係の希薄化の見地から以下の研究を実施する（モデル図参照）。

- (1) 人間関係の希薄化を有機体としての家族機能と重要他者との愛着関係という2つの指標でとらえ、両者の内的整合性を検証する。
- (2) 人間関係の希薄化を形成する（した）要因として幼少期の体験を設定し、被養育体験や被虐待体験がどれほどの影響を与えるかを検証する。

- (3) 人間関係の希薄化が青年期のパーソナリティに与える影響の程度を評価する。パーソナリティとして、(1) 気質・性格 (2) 対処行動 [意識レベルでのストレス対応] (3) 防衛スタイル [意識レベルでのストレス対応] (4) 健康な罪責感 を取り上げる。
- (4) 人間関係の希薄化がもたらした精神保健問題を「外に向く問題」と「内に向く問題」に分ける。「外に向く問題」として、怒りの感情、攻撃的行動、性行動の逸脱と取り上げ、「内に向く問題行動」として、引きこもり、自殺念慮、抑うつ・不安を取り上げる。
- (5) 本調査で測定するパーソナリティが「外に向く問題」「内に向く問題行動」に与える影響の程度を検証する。
- (6) 問題行動を呈したものの公的資源の活用の内容と程度を調査する。
- (7) 人間関係の希薄化、パーソナリティ、各

種問題行動の相互関係について総合的に検証する。

- (8) 実証的研究の基礎の上に、今後の政策提言を行う

これらの観点から、本研究では以下の分担課題を設定し、本年度はこれらのいくつかについて実証的研究を実施した。

- (1) 人間関係の希薄化の指標としての家族機能と愛着関係

青年期は、その重要な人間関係を家庭環境における閉ざされた人間関係から、友人や恋人といった人間関係へと変化させている重要な時期である。家庭の機能が安定していれば、友人や恋人との愛着関係も安定したものであると考えられる。つまり、家庭機能と愛着関係はひとつの整合性をもった環境要素であると推定できる。本研究では多数例の思春期被検者についてこの点を検証する。

- (2) 青年期の怒りの感情についての研究：防衛スタイルとの関連

青少年の公衆の場における暴力行動の心理的原因を探るべく、青年期の男女を対象とし、怒りの感情を測定し、これを昨年度開発した防衛スタイルから予測できるか調べる。

- (3) 青年期の怒りの感情についての研究：

怒りの感情（攻撃性）の発生要因について調査する。

- (4) 青年期のパーソナリティ形成に係わる幼少期体験についての研究

現代青少年のパーソナリティ形成を人間関係の希薄化の視点から研究する。直近の人間関係はむしろ特定のパーソナリティにより引き出された可能性がある。そこで、いくつかのパーソナリティ測度を用い、幼少期の親、友人、教師などとの関係性がどれほどパーソナリティ形成に関与しているかを調査する。

- (5) 青年期の性行動（安全なセックス）の心理的規定要因に関する研究

青少年の公衆の場における暴力行動に関連が深いと考えられている事項に、性行動と健康関連行動がある。まず、性行動に対する寛容度がパーソナリティとどれほど関連しているかを調査し、さらに性行動に対する寛容度が、昨年度開発した罪悪感尺度とどれほど関連しているかを調査する。また、実際の性行為が最初に行われた時期、パートナーの安定度・人数、安全な性行動を、幼少期の被養育体験、家族環境（家族機能）、パーソナリティから予測できるか調査する。

- (6) 引きこもり事例における公的資源の利用と転帰

「内に向く問題行動」の代表として引きこもりを取り上げ、その長期転帰を調査し、公的資源の活用が、良好な転帰の要因となっているかを確認する。

- (7) 政策提言

上述したすべての分担研究の成果から、こんご取るべき国家政策のあるべき姿について提言をまとめる。すでに発生した青少年の公衆の場における暴力行動については、従来のように医療や矯正の領域で治療・処遇が行われてきた。今回の研究は、青年に見られる暴力・性・非健康行動について、事前的予防的な施策の可能性について提言を行うものとする。

B. 研究方法（平成14年度）

上記の研究課題に対し、本年度は以下のような分担課題について調査・研究を実施した。

パーソナリティ形成にかかわる幼少期体験についての研究

パーソナリティと幼少期に受けた親からの養育の関係を調査するために、小児科医療機関に協力を求め、それらの外来に受診した親のうち0歳から小学校4年生までの児の親に調査票を配布した。結果として、283家庭分の調査票を回収した。親の養育態度は Parental Bonding Instrument (PBI) で評価した。PBIにはケア care と過干渉 overprotection という2つの下位尺度があり、高いケアと低い過干渉が適切な養育環境であるといわれている。

3歳以下の児の気質と親の要因を調査すると、母の過干渉の傾向が強いほど activity が低く、児は静かにしている。また母の過干渉の傾向が強いほど児は sociability 社会性に欠ける。父の自己志向性が強いほど子は落ち着いているといえる。

次に、親のパーソナリティと親自身が子どもであったころに受けた養育環境の関係をみると、高い care と低い overprotection が性格 - ことに self-directedness - の成長に寄与していると考えられた。女性についてのみ、高い care と低い overprotection が気質 - 高い reward dependence と低い harm avoidance - に影響していた。

青年期の対人的怒り感情：男子高校生の怒り対象、動機、人格要因に関する予備的分析

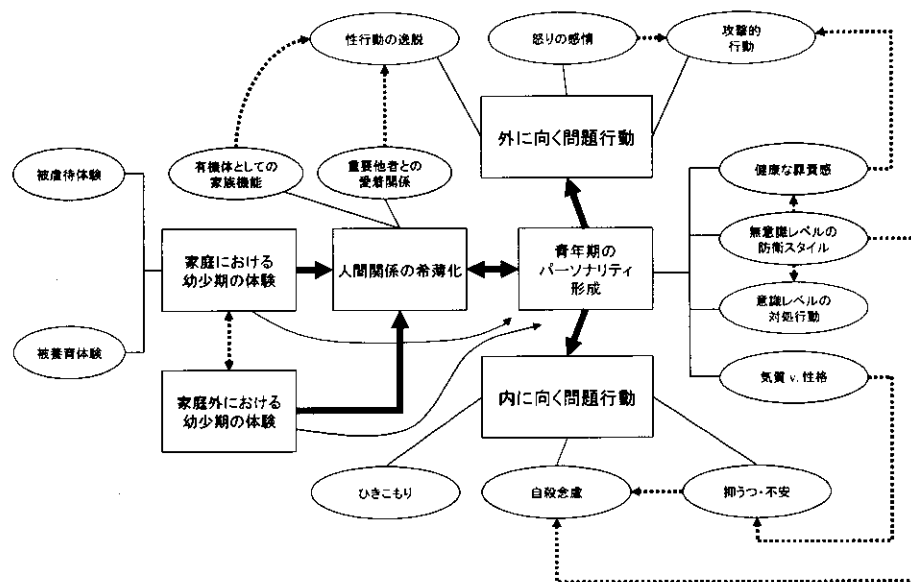
青年期の人間関係の特徴を対人感情の観点から理解するために、男子高校生の怒りの経験を質問紙によって調査した。彼らは、家族、友人、教師など身近な人に対して怒りを感じることが多かった。怒りの主たる原因は、自由や地位が脅かされたとか危害を加えられたと感じることだった。怒ったとき、生徒の多くは(85%) 攻撃反応を示し、成人と比べて暴力反応が比較的多かった。暴力反応は自由や地位が脅かされたと感じたとき生じるが、これは短気で感情制御の低い生徒によく見られた。間接的攻撃は危害を受けたと感じたときに動機づけられたが、これは猜疑心や被差別感など敵対的な対人認知傾向のある生徒に見られた。

校から「社会的ひきこもり」への遷延化の一因となっているとの仮説を立てた。不登校の問題についての相談・援助機関に対する施設調査と、相談・援助機関に訪れていた中学3年生生徒や家族に対する郵送アンケートによる個人調査を行うこととした。現在調査実施中である。

不登校からひきこもりへの遷延化と転帰に関する研究

「社会的ひきこもり」を呈した者の40.8%に不登校経験があるとの先行研究を、不登校児童生徒の予後に関する先行研究を調べ、中学校卒業後への相談・援助の継続が起こりにくいことが、不登

モデル図



分担研究報告書

パーソナリティ形成にかかわる幼少期体験についての研究

主任研究者

北村 俊則 熊本大学医学部神経精神医学講座

研究協力者

下地 明友 熊本大学医学部神経精神医学講座

中島 央 熊本大学医学部神経精神医学講座

蓮井 千恵子 熊本大学医学部神経精神医学講座

吉川 武彦 国立精神・神経センター精神保健研究所

研究要旨

パーソナリティと幼少期に受けた親からの養育の関係を調査するために、協力小児科医療機関の外来に受診した親のうち0歳から小学校4年生までの児の親に調査票を配布し、283家庭分の調査票を回収した。3歳以下の児の気質と親の要因を調査すると、母の過干渉の傾向が強いほど activity が低く、児は静かにしている。また母の過干渉の傾向が強いほど児は sociability 社会性に欠ける。父の自己志向性が強いほど子は落ち着いているといえる。次に、親のパーソナリティと親自身が子どもであったころに受けた養育環境の関係をみると、高い care と低い overprotection が性格 - ことに self-directedness - の成長に寄与していると考えられた。女性についてのみ、高い care と低い overprotection が気質 - 高い reward dependence と低い harm avoidance - に影響していた。

A. 研究目的

青年期のさまざまな問題行動と精神保健上の問題を考えるとき、パーソナリティの影響が重要な要因として考えられている。児童期のさまざまな体験がパーソナリティの形成に関与しているということがこれまでも臨床家や研究者が指摘するところであった。ことに、幼少期の親との関係性は重要と考えられている。しかしこの点に関する実証的研究は日本においては大変少ない。

本研究は、パーソナリティと幼少期に受けた親からの養育の関係を調査し、上記の研究課題に答えようとするものである。

児の親に調査票を配布した。

アンケートは (a) 父親用 (b) 母親用を準備した。児の年齢により、(1) 0歳から3歳用 (2) 4歳から5歳（就学前）用 (3) 6歳（小学校1年生）から9歳（小学校4年生）用の3種類を準備した。これらの内容はほぼ同一であり、親の性別や児の年齢に応じて教示の一部や設問文章を変更した。

本報告時点で集計できた人数は、3歳以下の児の家庭が148、4歳以上が135家庭であった。全被検者についてみると、児の平均年齢が49.2ヶ月（4歳）、父の平均年齢が35.5歳、母の平均年齢が34.8歳であった。

方法

アンケートは父親用と母親用をそれぞれ別個の封筒に入れ、お願い状を添えた。料金受取人払い返信封筒を入れた。記入は自由意志によることおよび参加・不参加により診療上の不利益は派生しないことを説明した。記入したアンケートは無記名とした。ただし、夫婦の組み合わせを同定する

B. 研究方法

対象

研究に協力する小児科医療機関（表1）の外来に受診した親のうち0歳から小学校4年生までの

ために、各組のアンケートに通し番号を打った。記入後に返信用封筒を用いて主任研究者まで返送する方法をとった。従って、アンケートへの協力を依頼した小児科医は、だれが参加し、だれが不参加であったのかを知りえない。0歳から3歳の児を持つ父親用アンケートを付録として添付してある。

なお、本研究は熊本大学医学部倫理委員会の審査により承認を得た。

尺度

1. 子および親のパーソナリティ

(1) 24 ヶ月未満の児については Emotionality Activity Sociability Impulsivity Scale (EASI) (2) 24 ヶ月から5歳の児については Pre-school Temperament and Character Inventory (PSTCI) (3) 就学児については Junior Temperament and Character Inventory Parent version (JTCI-P) (4) 親については Temperament and Character Inventory (TCI)を用いた。

Emotionality Activity Sociability Impulsivity Scale (EASI) は Buss ら (1973) が児童の気質を評価するために開発した尺度である。記入は親が行う。20項目より構成され、各項目は5件法で評価する。下位尺度は Emotionality (感情性) Activity (行動性) Sociability (社会性) Impulsivity (衝動性) の4つである。

Temperament and Character Inventory (TCI) を Professor Cloninger の許可の下に Kijima ら (2000) が TCI の翻訳を行った。TCI およびその旧版である Tridimensional Personality Questionnaire は日本国内の患者人口および非患者人口で使用されている (Yoshino ら, 1994; Kitamura ら, 1999)。これらの日本語版尺度の内的整合性や因子構造については Takeuchi ら (1993)、Kijima ら (2000)、Tomita ら (2000) の報告がある。

2. 養育態度

Parker ら (1979) が開発した Parental Bonding Instrument (PBI) を用いた。これは全25項目からなる自己評価尺度で、被験者の16歳以前のような正直における両親の養育行動を回顧的に回答させるもので、本調査ではその日本語版25項目を用いた (Kitamura ら, 1993)。下位尺度については、Parker (1979) の care (ケア, 愛情) および over-protection (過干渉) の2因子構造の想定にしたがった。PBI は、両親や同胞による他者評価と高い一致率を示すことから、養育行動の回顧的認識を意味するだけでなく、実際の養育行動を反映したものである可能性が示唆されている (Parker, 1989)。また PBI

は、Parker (1979) が再検査法によって高い信頼性を確認している。

3. アダルト・アタッチメント

アタッチメントは Bowlby (1958, 1977) によれば人が特定他者に—とくに新生児がその親に一持つ強い情緒的絆であり、アタッチメントによって作られた自己と他者についての表象 (internal working model) が成人期の対人関係のとり方や精神病理に影響しているものである。成人のアタッチメントを測定する種々の実証的手法のなかから Bartholomew ら (1991) の Relationship Questionnaire (RQ) を取り上げた。

Bowlby (1977) の臨床的考察を実証的尺度に『翻訳』した Bartholomew ら (1991) は、アダルト・アタッチメント・スタイルを、secure、fearful、preoccupied、dismissing の4つに分けたが、Bowlby の理論はアタッチメントの表れ方の基礎には重要な他者と自己に関する表象があるとした。RQ の得点から以下の式で自己および他者の表象を得点化することができる。

$$\text{Self image} = (\text{secure} + \text{dismissing}) - (\text{fearful} + \text{preoccupied})$$

$$\text{Other image} = (\text{secure} + \text{preoccupied}) - (\text{fearful} + \text{dismissing})$$

Self-image も other image も得点が高いほど良好な内定表象を示すものである。

我々は著者より翻訳許可を得た上で Relationship Questionnaire を翻訳し、いくつかの調査で用いた。

4. 怒り

怒りの感情については、Spielberger の State-Trait Anger Expression Inventory (STAXI) を用いた。STAXI には state anger、trait anger、anger in、anger out、anger control の下位尺度がある。state anger (10項目) は調査時点での主観的怒りの強さを表し、trait anger (10項目) はその個人の日常的 (恒常的) 怒りの感情を持つ傾向を表す。STAXI ではさらに怒りの表現形式も評価の対象としている。すなわち、anger in (8項目) は怒りの感情を抑圧する傾向を、anger out (8項目) は他者や環境に怒りを表現する傾向を、anger control (8項目) は怒りの表現を自らコントロールする能力を評価している。なお、今回はアンケートの量の問題から trait anger を割愛した。

さらに、上記の怒りの感情を持ったときに感じる罪責感も調査した。理論的考察から罪責感を懲罰的罪責感と贖罪的罪責感に分け、STAXI の

Trait Anger を問う 20 項目の直後に 2 つの設問を設けて、「以上のようなことがあったら、あなたは」という教示文で 2 つの罪責感に対して各 1 つの質問項目を 4 件法で測定した。

5. 抑うつと不安

抑うつ感と不安感は Hospital Anxiety and Depression Scale を用いて評価した。Hospital Anxiety and Depression Scale (HAD; Zigmond & Snaith, 1983) は総計 14 項目で、各 4 件法で測定される。下位尺度は抑うつ (7 項目) と不安 (7 項目) である。HAD 尺度は元来 liaison psychiatry で用いることを目的とし、抑うつ・不安の身体症状を排除し、認知・感情症状に限定した。従って身体症状がある被検者に使用可能。日本語版の信頼性・妥当性は検討されている (東ら, 1996)。

6. うつ病の既往

Major Depressive Episode in the Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders 4th edn (DSM-IV; American Psychiatric Association, 1994)

に記載されているうつ病のそれぞれの症状について、施行時まで経験したことがあるかどうかを聞いた。その後、それらの症状がどのくらい継続したかもあわせてたずね、症状の持続が 2 週間を越えていることを確認した。

解析

解析は SPSS 10.0 を用いて行った。パーソナリティを基準変数とし、それぞれの説明変数ごとに主に積率相関係数を求めた。

今回は十分な被検者数が集まっていないことから、2 つの被検者群を設定した。(1) 3 歳以下の児を持つ父母について、児の EASI 得点を基準変数とした。(2) 全被検者について父親および母親の TCI 得点を基準変数とした。

表 1. 協力小児科医

村上幹彦	宇賀岳病院
上野剛彦	上野小児科
瀬口良三郎	瀬口医院
後藤善隆	地域医療センター小児科
入部兼繁	熊本市民病院小児科
三洲 浩	熊本大学医学部小児科
桑原廣浩	くわはら小児科
島田 康	島田小児科
多久肇一	天草中央総合病院小児科
杉野茂人	杉野クリニック
渡辺 健	渡辺医院
藤川久子	藤川医院
浦本恭子	浦本医院
江上経誼	江上小児科
前田利為	前田小児科医院
水元裕二	みずもとこどもクリニック
宮崎 亨	みやざきこどもクリニック
服部愛子	ことひらクリニック
原口洋吾	はらぐちこどもクリニック
古瀬昭夫	熊本中央病院小児科

C. 研究結果

1. 児のパーソナリティの規定要因

児のパーソナリティは親の観察に基づき EASI の評価を行った。したがって、同一の児であっても父の採点による EASI 得点と母の採点による

EASI 得点が存在する。父と母の評価の相関係数は、emotionality $r = .33$ ($P < .01$); activity $r = .46$ ($P < .001$); sociability $r = .52$ ($P < .001$); impulsivity $r = .45$ ($P < .001$) と中程度の一致はあるが決して強いものでもない。これは、児の異なる状況を観察していることに加えて、親の社会的望ましさの傾向や抑うつ・不安といった心理状態がバイアスとして加重されている可能性がある。

そこで社会的望ましさ social desirability 得点との相関を見ると(表2)、母親の評価した sociability が social desirability 得点と有意の相関 ($r = -.29$, $P < .001$) を示した以外はなんら有意の相関はなかった。また、Hospital Depression and Anxiety Scale で評価した親の抑うつ・不安については、父の抑うつと不安が児の emotionality の評価と、同じく母の抑うつが児の emotionality の評価と相関していた。また父および母の抑うつが児の impulsivity の評価と相関していた。ところが一方の親の下した EASI 評価は他の親の抑うつ不安と相関していなかった。このことは親の抑うつや不安が強いと、その親は子をより感情が乏しく、かつ衝動的であると評価する傾向にあるといえる。したがって、EASI 評価には(ことに emotionality と impulsivity)、評価を下す親の感情状態がバイアスとして関与する可能性があることを考慮しなければならない。

親の養育態度は PBI を用いて評価した。この際、親には自分自身の評価と配偶者(もう一方の親)の養育行動の評価をさせた。つまり、例えば父親の養育行動について、父自身が行う評価と、いつも横にいる母親が行う評価があるのである。もし、EASI の評価と自身の PBI 評価に相関があっても、EASI の評価と配偶者による養育態度の評価に相関がなければ、その相関は見かけ上のものである可能性が否定できない。しかし、もし EASI 得点が、自身の PBI 得点と配偶者による PBI 得点のいずれにも相関を持つのであれば、真実の関連があるといえるであろう。

表2にあるように、親の PBI 得点と子の EASI 得点の間で相関があったのは以下の通りであった。

父の care と emotionality

父の overprotection と activity, sociability, impulsivity

母の care と emotionality

母の overprotection と emotionality, activity, sociability, impulsivity

しかし、他の親による子についての EASI 評価でも有意の相関が残ったものは

父の overprotection と sociability

母の care と emotionality

母の overprotection と emotionality, activity, sociability, impulsivity

であり、加えて、養育態度のうち自身の評価でなく一方の親が行った評価でなお有意の相関が残ったものは、母の overprotection と activity, sociability の関係であった。ことに sociability は .2 から .3 ($P < .001$) ほどの相関をしめした。

親の adult attachment pattern は子の気質とはほとんど関連を示さなかった。

親のパーソナリティと子の気質の相関を次に見てみる。有意水準が .001 未満の強い相関を示したのは

父の self-directedness と子の activity

父の self-directedness と子の impulsivity

母の self-directedness と子の emotionality

母の co-operativeness と子の emotionality

であった。

子の気質のうち自身の評価でなく一方の親が行った評価となお有意の相関が残った親のパーソナリティは、父の self-directedness と子の activity の間のそれであった。父の自己志向性が強いほど子は落ち着いているといえる。

親の怒りの感情およびその表出方法と子の気質の関係については、母の trait anger および anger in が子の emotionality と相関を示したが、相関は弱いものであった。

親のうつ病の既往は子の気質と関連を有さなかった。

小括:母の過干渉の傾向が強いほど activity が低く、児は静かにしている。また母の過干渉の傾向が強いほど児は sociability に欠ける。父の自己志向性が

強いほど子は落ち着いているといえる。

2. 成人（親）のパーソナリティの規定要因

親のパーソナリティを TCI で測定した。同時に、その親自身が15歳以前にどのような養育を親（今回の調査児の祖父母）から受けたかを PBI および PAQ を用いて調査した（表3と表4）。

親の養育が子のパーソナリティ形成に与える影響には性差があることが指摘されているので、父親と母親に分けて解析を行った。有意水準が .001 未満のものだけを取り上げた。

まず、父親のパーソナリティについては、self-directedness が祖父の care と正の相関を、そして祖父の overprotection と負の相関を示した。

母のパーソナリティについては、harm avoidance が母の overprotection と正の相関を、reward dependence が祖父及び祖母の care と正の相関を、self-directedness が祖父の overprotection と負の相関を、co-operativeness が祖母の overprotection と負の相関を、self-transcendence が祖父の authoritativeness と正の相関を示した。

小括：高い care と低い overprotection が性格—ことに self-directedness —の成長に寄与していると考えられた。女性についてのみ、高い care と低い overprotection が気質—高い reward dependence と低い harm avoidance —に影響していた。

D. 考察

今回は調査の途中であり、結果は予報的なものである。しかし、いくつかの興味ある所見を得た。

まず、生まれて数年の児の気質について、親の養育との間にいくつかの相関関係があることがわかった。乳幼児の気質については生物学的・生得的なものであると考えられてきた。今回の調査は、母が愛情ある接し方をするほど子は静かに落ち着いていることを示している。授乳など児の生命に直接かわる母親の育児態度が児の行動特徴に影響する可能性を示すものと考えられる。

しかし、本研究が横断的調査であることから、他

の可能性も否定できない。例えば、児が落ちついているからこそ母が愛情ある接し方が出来るという可能性もある。しかし、児の特徴が親の養育態度に影響を与えるなら父親のそれにも同様な影響を与えうであろう。上記の関連が母の育児態度とのものであり、父育児態度とは相関していないことから、養育態度が児の行動を規定している仮説も十分考えられるであろう。

本研究で扱った児は4歳未満の子どもであり、学童期に入った子どもたちに当てはめるわけにはいかない。本研究班の調査として、小学校および中学校の学童を対象とした調査を現在施行している。この結果を得て、再度検討する必要がある。

次に、親のパーソナリティが親自身が幼少期に受けた養育環境と環境を見てみた。男女共通していえることは高い care と低い overprotection → 望ましい養育環境 → が気質でなく性格と関連していることである。低い care と高い overprotection はうつ病、不安障害など多くの心理的不適応状態の危険因子であることが報告されている。今回、こうした養育環境が若い成人のパーソナリティにも関連していることは、うつ病などの基礎にパーソナリティの障害があることとあわせ考慮すれば、不良な養育環境→パーソナリティの障害→心理的不適応の因果関係が存在することも仮定できると思われる。

E. 結論

小児科外来受診した児の親にアンケートを配布し、283家庭分の調査票を回収した。

児の気質の予測因子：母の過干渉の傾向が強いほど activity が低く、児は静かにしている。また母の過干渉の傾向が強いほど児は sociability 社会性に欠ける。父の自己志向性が強いほど子は落ち着いているといえる。

若い成人のパーソナリティの予測因子：高い care と低い overprotection が性格—ことに self-directedness —の成長に寄与していると考えられた。女性についてのみ、高い care と低い overprotection が気質—高い reward dependence と低い harm avoidance —に影響していた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

文献

- Bartholomew, K. (1997). Adult attachment process: individual and couple perspectives. *British Journal of Medical Psychology*, 70, 249-263.
- Bartholomew, K., & Horowitz, L. M. (1991). Attachment styles among young adults: a test of four-category model. *Journal of Personality and Social Psychology*, 61, 226-244.
- Bartholomew, K., & Shaver, P. R. (1998). Methods of assessing adult attachment: do they converge? In (eds.) J. A. Simpson, & W. S. Rholes. *Attachment Theory and Close Relationships*. pp. 25-45
- Bowlby, J. (1958). The nature of the child's tie to his mother. *International Journal of Psycho-analysis*, 39, 350-373.
- Bowlby, J. (1977). The making and breaking of affectional bonds. I. aetiology and psychopathology in the light of attachment theory. *British Journal of Psychiatry*, 130, 201-210.
- Buss, A. H., Plomin, R., & Willerman, L. (1973). The inheritance of temperaments. *Journal of Personality*, 41, 513-524.
- Buri, J. R. (1991). Parental Authority Questionnaire. *Journal of Personality and Social Assessment*, 57, 110-119.
- Buri, J. R., Louiselle, P. A., Misukanis, T. M., & Mueller, R. A. (1988). Effects of parental authoritarianism and authoritativeness on self-esteem. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 14, 271-282.
- Buri, J. R., Miskanis, T. M., & Mueller, R. A. (1988). "Nothing I ever do seems to please my parents" Female and male self-esteem as a function of mother's and father's nurturance. St. Paul, MN: University of St. Thomas, Psychology Department.
- Buri, J. R., Murphy, P., Rightmeier, L. M., & Komer, K. K. (1992). Stability of parental nurturance as a salient predictor of self-esteem. *Psychological Reports*, 71, 535-543.
- 東あかね, 八城博子, 清田啓介, 井口秀人, 八田宏之, 藤田きみゆ, 渡辺能行, 川井啓市(1996). 消化器内科外来における hospital anxiety and depression scale (HAD尺度) 日本語版の信頼性と妥当性の検討. *日本消化器病学会雑誌*, 93, 884-892.
- Kijima, N., Tanaka, E., Suzuki, N., Higuchi, H. & Kitamura, T. (2000). Reliability and validity of the Japanese version of the Temperament and Character Inventory. *Psychological Reports* 86, 1050-1058.
- Kitamura, T., Kijima, N., Sakamoto, S., Tomoda, A., Suzuki, N. & Kazama, Y. (1999). Correlates of problem drinking among Japanese women: personality and early experiences. *Comprehensive Psychiatry* 40, 198-114.
- Kitamura, T. & Suzuki, T.(1993). A validation study of Parental Bonding Instrument in Japanese Population. *Japanese Journal of Psychiatry and Neurology* 47, 29-36.
- Parker, G, Tupling, H. & Brown L.B.(1979). A parental bonding instrument. *British Journal of Medical Psychology* 52, 1-10.
- Parker, G(1989). The parental Bonding Instrument: psychometric properties reviewed. *Psychiatric Development* 7, 317-335.
- Takeuchi, M., Yoshino, A., Kato, M., Ono, Y. & Kitamura, T. (1993). Reliability and validity of the Japanese version of the Tridimensional Personality Questionnaire among university students. *Comprehensive Psychiatry* 34; 273-279.
- Tomita, T., Aoyama, H., Kitamura, T., Sekiguchi, C., Murai, T. & Matsuda, T. (2000). Factor structure of psychobiological seven-factor model of

personality: a model revision. *Personality and Individual Differences* 29; 709-727.

- Yoshino, A., Kato, M., Takeuchi, M., Ono, Y., Kitamura, T. (1994). Examination of the tridimensional personality hypothesis of alcoholism using empirically multivariate typology. *Alcoholism: Clinical and Experimental Research* 18; 1121-1124.
- Zigmond, A. S. & Snaith, R. P. (訳) 北村俊則 (1993). Hospital Anxiety and Depression Scale (HAD 尺度). *精神科診断学*, 4, 371-372.

表2. 児の EASI 得点と予測変数

	emotionality		activity		sociability		impulsivity	
	rater: father	rater: mother	rater: father	rater: mother	rater: father	rater: mother	rater: father	rater: mother
Father's care	father	-0.21 * (87)	father	-0.01 (87)	father	-0.03 (86)	father	-0.21 (87)
	mother	-0.02 (80)	mother	-0.13 (79)	mother	-0.14 (79)	mother	-0.18 (80)
Father's overprotection	father	-0.11 (85)	father	-0.34 *** (85)	father	-0.39 *** (84)	father	-0.26 * (85)
	mother	-0.11 (77)	mother	-0.10 (76)	mother	-0.17 (76)	mother	-0.18 (77)
Mother's care	father	-0.21 (83)	father	0.07 (83)	father	0.05 (83)	father	-0.09 (83)
	mother	-0.28 * (78)	mother	0.01 (77)	mother	-0.04 (77)	mother	-0.19 (78)
Mother's overprotection	father	0.02 (83)	father	-0.24 * (83)	father	-0.35 *** (83)	father	-0.05 (83)
	mother	-0.27 * (78)	mother	-0.13 (77)	mother	-0.39 *** (77)	mother	-0.27 * (78)
Father's self model	father	-0.24 * (85)	father	-0.05 (84)	father	-0.24 * (85)	father	-0.25 * (85)
Father's other model	father	-0.15 (85)	father	0.02 (84)	father	-0.22 * (85)	father	-0.25 * (85)
Mother's self model	mother	-0.03 (81)	mother	-0.05 (80)	mother	0.05 (80)	mother	0.08 (81)
Mother's other model	mother	-0.19 (81)	mother	0.10 (80)	mother	-0.12 (80)	mother	-0.19 (81)
Father's novelty seeking	father	0.07 (84)	father	0.16 (83)	father	-0.04 (83)	father	0.15 (84)
--- harm avoidance	father	-0.03 (85)	father	0.19 (84)	father	-0.19 (84)	father	0.18 (85)
--- reward dependence	father	-0.04 (84)	father	0.21 (83)	father	-0.10 (83)	father	-0.16 (84)
--- persistence	father	0.24 * (86)	father	0.03 (85)	father	0.10 (85)	father	-0.11 (86)
--- self-directedness	father	-0.08 (82)	father	-0.14 (81)	father	-0.01 (82)	father	-0.35 *** (82)
--- co-operativeness	father	0.16 (82)	father	0.19 (81)	father	0.07 (81)	father	-0.05 (82)
--- self-transcendence	father	0.13 (83)	father	0.07 (82)	father	0.15 (2)	father	0.12 (83)
--- social desirability	father	-0.07 (88)	father	0.02 (87)	father	-0.02 (87)	father	0.07 (88)
Mother's novelty seeking	mother	0.01 (76)	mother	0.24 * (75)	mother	-0.01 (75)	mother	0.12 (76)
--- harm avoidance	mother	0.12 (80)	mother	0.10 (79)	mother	0.03 (79)	mother	0.14 (80)
--- reward dependence	mother	-0.14 (78)	mother	0.02 (77)	mother	-0.02 (77)	mother	0.10 (78)
--- persistence	mother	0.04 (81)	mother	0.23 * (80)	mother	0.20 (80)	mother	0.15 (81)
--- self-directedness	mother	-0.20 (79)	mother	-0.30 *** (126)	mother	-0.04 (78)	mother	-0.11 (79)

--- co-operativeness	mother	-.23 * (77)	-.35 *** (126)	-.10 (76)	-.06 (124)	-.17 (76)	-.08 (126)	-.10 (77)	-.12 (124)
--- self-transcendence	mother	-.09 (78)	.04 (128)	.01 (77)	-.05 (126)	.07 (78)	.05 (128)	-.04 (78)	.19 * (126)
--- social desirability	mother	-.26 * (79)	-.14 (130)	-.10 (78)	.04 (129)	-.19 (78)	-.29 *** (129)	-.20 (79)	.01 (129)
Father's trait anger	father	.18 (89)	.02 (80)	.19 (88)	.15 (78)	.03 (88)	-.16 (80)	.11 (89)	-.05 (79)
--- anger in	father	.14 (89)	.07 (80)	.20 (88)	.14 (78)	-.06 (88)	.00 (80)	.11 (89)	.14 (79)
-- anger out	father	.08 (89)	-.00 (80)	.13 (88)	.20 (78)	-.05 (88)	-.03 (80)	.19 (89)	.05 (79)
--- anger control	father	.12 (89)	.03 (80)	.19 (88)	-.03 (78)	.03 (88)	.06 (80)	-.03 (89)	-.01 (79)
--- persecutory guilt	father	.00 (85)	.09 (77)	-.03 (84)	.16 (75)	-.11 (84)	.05 (77)	-.01 (85)	.11 (76)
--- penitential guilt	father	.07 (85)	-.20 (77)	-.01 (84)	-.02 (75)	-.12 (84)	-.08 (77)	.05 (85)	-.08 (76)
Mother's trait anger	mother	.15 (79)	.24 ** (130)	.12 (78)	-.05 (129)	.12 (78)	.09 (130)	.07 (79)	.05 (129)
--- anger in	mother	.34 ** (81)	.26 ** (134)	.26 * (80)	.04 (133)	.15 (80)	.01 (133)	.18 (81)	.18 * (133)
-- anger out	mother	.10 (81)	.04 (131)	.08 (80)	-.15 (130)	.07 (80)	.11 (131)	-.01 (81)	-.04 (130)
--- anger control	mother	-.09 (80)	.02 (133)	-.01 (79)	.11 (132)	-.06 (79)	-.09 (132)	.01 (80)	.04 (132)
--- persecutory guilt	mother	.19 (80)	.11 (133)	-.03 (79)	.00 (132)	-.03 (79)	.09 (132)	.16 (80)	.14 (132)
--- penitential guilt	mother	.18 (80)	.02 (131)	.11 (79)	-.14 (130)	.07 (79)	.10 (130)	.31 ** (80)	.11 (130)
Father's HAD depression	father	.32 ** (88)	.04 (79)	-.03 (87)	.13 (77)	.19 (87)	.19 (79)	.24 * (88)	.10 (78)
--- HAD anxiety	father	.26 * (84)	.09 (75)	-.06 (83)	.10 (73)	.07 (84)	.12 (75)	.21 (84)	.08 (74)
--- lifetime depression	father	.12 (90)	.06 (136)	.04 (89)	.14 (135)	.05 (89)	.04 (135)	.07 (90)	.01 (135)
Mother's HAD depression	mother	.13 (79)	.24 ** (132)	.01 (78)	.05 (132)	.16 (78)	.03 (132)	-.10 (79)	.20 * (131)
--- HAD anxiety	mother	.11 (80)	.15 (132)	-.02 (79)	-.01 (131)	.14 (79)	.00 (131)	.05 (80)	.06 (131)
--- lifetime depression	mother	.11 (90)	-.06 (136)	.20 (89)	.15 (135)	-.01 (89)	-.11 (135)	-.00 (90)	-.05 (135)

() number of the participants available for analyses

* $P < .05$; ** $P < .01$; *** $P < .001$

表 3. 父親の TCI 得点と予測変数

	Novelty seeking	Harm avoidance	Reward dependence	Persistence	Self-directedness	Co-operative-ness	Self-transcendence
Grand father's care	-.09 (136)	-.20 * (135)	.22 ** (136)	.14 (136)	.34 *** (133)	.21 * (130)	-.07 (121)
--- overprotection	.05 (135)	.16 (134)	-.12 (135)	-.15 (135)	-.29 *** (132)	-.13 (130)	.10 (135)
--- authoritativeness	-.03 (113)	-.16 (114)	.18 (113)	.08 (115)	.15 (110)	.15 (109)	-.05 (103)
Grand mother's care	-.15 (115)	.05 (117)	.24 * (114)	.07 (117)	.13 (112)	.21 * (111)	-.08 (115)
--- overprotection	.02 (115)	.05 (116)	-.16 (113)	-.13 (117)	-.19 * (111)	-.17 (110)	.18 (114)
--- authoritativeness	-.14 (114)	.03 (116)	.02 (113)	-.09 (117)	.03 (111)	.04 (110)	.01 (104)

() number of the participants available for analyses

* $P < .05$, ** $P < .01$, *** $P < .001$

表 4. 母親の TCI 得点と予測変数

	Novelty seeking	Harm avoidance	Reward dependence	Persistence	Self-directedness	Co-operative-ness	Self-transcendence
Grand father's care	-.02 (243)	-.16 (245)	.22 *** (246)	.11 (244)	.19 ** (239)	.18 ** (240)	.09 (247)
--- overprotection	-.03 (244)	.21 *** (246)	-.15 * (247)	-.04 (244)	-.27 *** (239)	-.17 ** (241)	-.03 (247)
--- authoritativeness	-.03 (245)	-.13 * (247)	.17 ** (248)	.16 * (245)	.16 * (241)	.18 ** (240)	.22 *** (247)
Grand mother's care	.00 (196)	-.21 ** (197)	.26 *** (200)	.10 (198)	.15 * (195)	.21 ** (196)	.10 (199)
--- overprotection	-.02 (169)	.20 ** (166)	-.20 * (169)	-.13 (165)	-.16 * (163)	-.25 *** (163)	-.02 (168)
--- authoritativeness	-.08 (172)	-.18 * (169)	.05 (172)	.11 (167)	.12 (165)	.09 (165)	.16 * (170)

() number of the participants available for analyses

* $P < .05$, ** $P < .01$, *** $P < .001$

子育てとお子様のメンタルヘルスに関するアンケート

調査用紙は本日受診なさったお子様の年齢に合わせて編集されています。この頁の下に書いてある年齢をご確認下さい。調査票はお父様とお母様に書いていただきますので2部同封されています。ご記入に際しては相談することなくご記入下さい。記入が終わられましたら、同封の返信用封筒で事務局にご返送下さい。

（ お 子 様 が 0 歳 ～ 3 歳 ）

お子様について

あなたのお子さまについてどのように感じていますか？ ここにお子さまと一緒に過ごしたり、お子さまに何かしてあげようとするときにお父さんやお母さんがいなくさまざまな気持ちを取りあげてあります。毎日の生活の中で、お子さまと過ごすのを楽しいと思うこともあるし、そうでないこともあると思います。下にあげているそれぞれについて、いまの気持ちに一番近いと感じられる表現に○をつけてください。

全然そう感じない	たまに少し そう感じる	たまに強く そう感じる	ほとんどいつも強く そう感じる
1	2	3	4

1	お子さまをいとしいと感じる	1	2	3	4
2	お子さまのためにしないといけないことがあるのに、おろおろしてどうしていいかわからない時がある	1	2	3	4
3	お子さまのことが腹立たしくいやになる	1	2	3	4
4	お子さまに対してなにも特別な気持ちがわからない	1	2	3	4
5	お子さまに対して怒りがこみあげる	1	2	3	4
6	お子さまの世話を楽しみながらしている	1	2	3	4
7	こんな子でなかったらなあと思う	1	2	3	4
8	お子さまを守ってあげたいと感じる	1	2	3	4
9	この子がいなかったらいいのになあと思う	1	2	3	4
10	お子さまをととても身近に感じる	1	2	3	4

お父様用（お子様が0歳～3歳）

あなたのお子様のご様子について、以下の20の質問のそれぞれについて、5つの答から選んで最も当てはまるところに○をつけてください。

全く あてはまらない	やや あてはまらない	どちらとも いえない	やや あてはまる	非常に あてはまる
1	2	3	4	5

		1	2	3	4	5
1	すぐに泣く					
2	朝起きるとすぐに、動きだす					
3	すぐに友達ができる					
4	自制心をこの子に身につけさせるのは難しい					
5	気が短い					
6	常に動き回っている					
7	人といるのが好きだ					
8	衝動的な傾向がある					
9	すぐに怒る					
10	長い間じっとしてられない					
11	恥ずかしがり屋である					
12	すぐに飽きてしまう					
13	すぐにおびえる					
14	活動的な遊び（ゲーム）よりも、塗り絵やブロック遊びのような 静かな遊び（ゲーム）の方が好きだ					
15	自立心がある					
16	容易に誘惑に負けないでられる					
17	のんきで楽天的だ					
18	食事などの時に、じっとしていない					
19	人と遊ぶよりも、一人で遊ぶ方が好きだ					
20	ひとつのおもちゃから別のおもちゃに、すぐに気が移る					

お父様用（お子様が0歳～3歳）

養育としつけについて

お子様に対するあなたの態度について伺います。以下の25の設問について、4つの答のうちからひとつを選んで、その数字を○で囲んで下さい。

全く該当しない	あまり 該当しない	やや 該当する	該当する
1	2	3	4

私は...

1	暖かく優しい声で話しかけている	1	2	3	4
2	必要なほどには手助けしない	1	2	3	4
3	好きなことをさせている	1	2	3	4
4	この子に対して冷たい	1	2	3	4
5	この子が抱えている問題や悩みに理解を示している	1	2	3	4
6	この子に対して優しい	1	2	3	4
7	この子が自分で意思決定するのを好ましく思っている	1	2	3	4
8	この子が大人びてくるのを喜ばない	1	2	3	4
9	この子がしようとする事を、総てにわたってコントロールしようとしている	1	2	3	4
10	この子のプライバシーを侵害している	1	2	3	4
11	この子といろいろな事を話すのを楽しんでいる	1	2	3	4
12	よくこの子に微笑みかけている	1	2	3	4
13	この子を子ども扱いすることが多い	1	2	3	4
14	この子が必要なことや望んでいることに、理解を示していない	1	2	3	4
15	物ごとをこの子に任せている	1	2	3	4
16	この子に、自分は望まれていない子だと思わせている	1	2	3	4
17	精神的に不安定なときは、なだめている	1	2	3	4
18	あまりこの子と喋らない	1	2	3	4
19	この子を親に頼らせようとしている	1	2	3	4
20	親がそばにいないと自分のことができない子だ、とこの子の事を考えている	1	2	3	4
21	できるかぎり自由にさせている	1	2	3	4
22	好きなときに外出させている	1	2	3	4
23	過保護だ	1	2	3	4
24	褒めない	1	2	3	4
25	この子が好きな服を着せている	1	2	3	4

お父様用（お子様が0歳～3歳）

現在単身の方は右の欄に をつけた上で、普段のあなたのご様子に飛んで下さい。

あなた配偶者の方（奥様・ご主人様）のお子様への態度について伺います。以下の25の設問について、4つの答のうちからひとつを選んで、その数字を○で囲んで下さい。

全く該当しない	あまり 該当しない	やや 該当する	該当する
1	2	3	4

私の配偶者は...

		1	2	3	4
1	暖かく優しい声で話しかけている	1	2	3	4
2	必要なほどには手助けしない	1	2	3	4
3	好きなことをさせている	1	2	3	4
4	この子に対して冷たい	1	2	3	4
5	この子が抱えている問題や悩みに理解を示している	1	2	3	4
6	この子に対して優しい	1	2	3	4
7	この子が自分で意思決定するのを好ましく思っている	1	2	3	4
8	この子が大人びてくるのを喜ばない	1	2	3	4
9	この子がしようとする事を、総てにわたってコントロールしようとしている	1	2	3	4
10	この子のプライバシーを侵害している	1	2	3	4
11	この子といろいろな事を話すのを楽しんでいる	1	2	3	4
12	よくこの子に微笑みかけている	1	2	3	4
13	この子を子ども扱いすることが多い	1	2	3	4
14	この子が必要なことや望んでいることに、理解を示していない	1	2	3	4
15	物ごとをこの子に任せている	1	2	3	4
16	この子に、自分は望まれていない子だと思わせている	1	2	3	4
17	精神的に不安定なときは、なだめている	1	2	3	4
18	あまりこの子と喋らない	1	2	3	4
19	この子を親に頼らせようとしている	1	2	3	4
20	親がそばにいないと自分のことができない子だ、とこの子の事を考えている	1	2	3	4
21	できるかぎり自由にさせている	1	2	3	4
22	好きなときに外出させている	1	2	3	4
23	過保護だ	1	2	3	4
24	褒めない	1	2	3	4
25	この子が好きな服を着せている	1	2	3	4

ご夫妻について

下記の「人間関係の4つのスタイル」の記述を読み、それぞれの記述があなたの配偶者（奥様・ご主人様）との関係スタイルにどの程度対応しているか、右の7点で採点して下さい。

全く私に当てはまらない	1
↓	2
↓	3
幾分私に当てはまる	4
↓	5
↓	6
非常に私に当てはまる	7

情緒的に配偶者（奥様・ご主人様）と近くなることは簡単だ。配偶者（奥様・ご主人様）を頼ったり、また配偶者（奥様・ご主人様）から頼られると安心する。独りぼっちになるのではないかと、配偶者（奥様・ご主人様）に受け入れられないのではないかと心配することはない	
配偶者（奥様・ご主人様）と近くなると不安だ。私は情緒的に近い関係を望んではいるが、配偶者（奥様・ご主人様）を完全に信用したり、配偶者（奥様・ご主人様）に頼ることは難しいと思う。配偶者（奥様・ご主人様）とあまり近くなると自分が傷つけられるのではないかと心配だ	
配偶者（奥様・ご主人様）とこれ以上ない位に情緒的に親密になることを望んでいるが、人は私が望むほど私と近くなりたくはないのだとわかることが多い。近しい人間関係を持っていないと不安だが、私が配偶者（奥様・ご主人様）を大切に思うほど、配偶者（奥様・ご主人様）は私を大切には思わないのではないかと、心配になることがときどきある	
情緒的に近しい関係を持たない方が気が楽だ。自分にとって自立と自己充足を感じる事が重要で、配偶者（奥様・ご主人様）を頼りにせず、また配偶者（奥様・ご主人様）からも頼りにされないほうがよい	